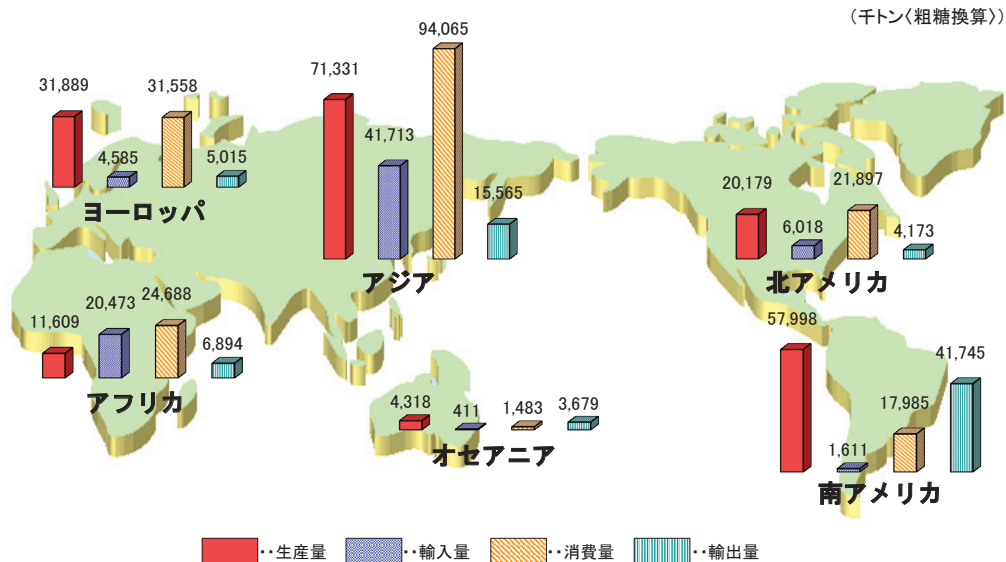


## 砂糖の国際需給

調査情報部 福寿 悠星、峯岸 啓之

### 1 世界の砂糖需給（2024年6月時点予測）

図 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2023/24年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2024」  
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1993/94	43,011	111,671	29,296	111,545	30,792	41,641	37.3
1998/99	55,071	134,755	36,987	124,048	39,954	62,812	50.6
2003/04	67,776	143,453	44,661	145,044	47,150	63,697	43.9
2008/09	67,085	150,476	48,241	160,676	49,830	55,297	34.4
2013/14	63,710	184,058	58,323	175,873	61,044	69,173	39.3
2018/19	80,727	186,660	61,474	182,930	61,506	84,426	46.2
2019/20	84,426	181,781	69,283	182,416	71,703	81,372	44.6
2020/21	81,372	181,931	66,766	184,867	68,152	77,050	41.7
2021/22	77,050	186,409	69,260	188,083	71,320	73,317	39.0
2022/23	73,317	191,489	70,654	189,764	71,649	74,048	39.0
2023/24 (2024年6月予測)	74,048	197,323	74,811	191,677	77,071	77,435	40.4

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, June 2024」  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。  
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2024年10月号の掲載となります。直近の内容は2024年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_003155.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003155.html)

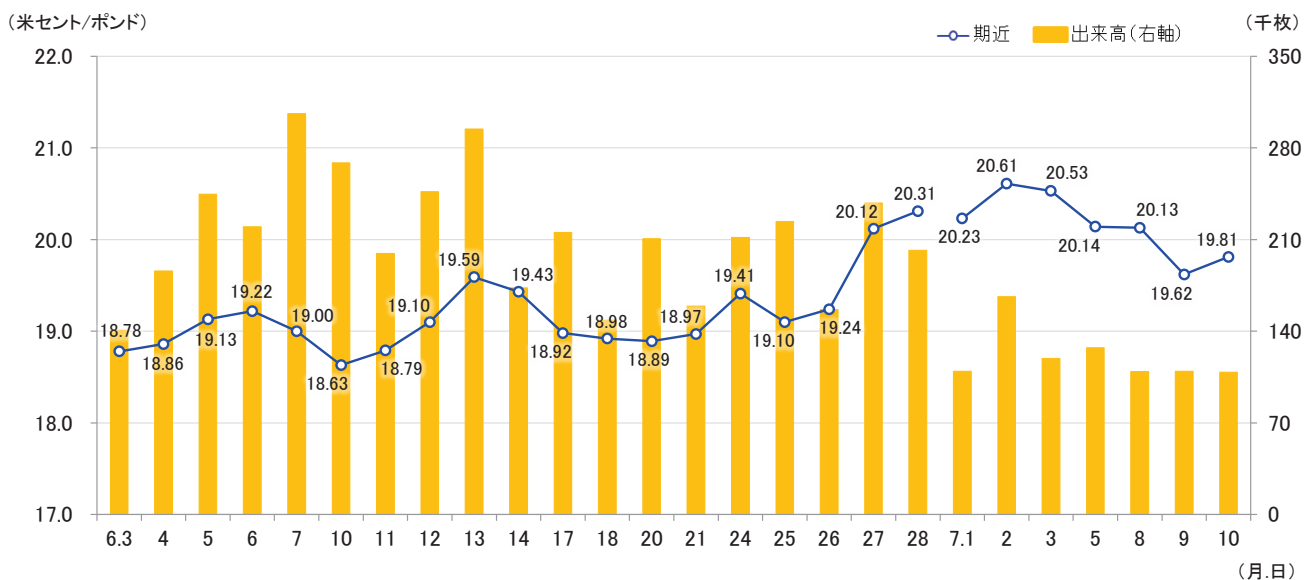
「主要国の砂糖需給」：[https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07\\_003156.html](https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003156.html)

## 2 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖先物相場の動き（6/3～7/10）

～18セント台でスタートするも、需給ひっ迫の見通しにより20セント台まで上昇～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所  
注：6月は期近7月限の値、7月は10月限の値。

2024年6月のニューヨーク粗糖先物相場（7月<sup>がつ</sup>限）の推移を見ると、3日はドル安（注1）により1ポンド当たり18.78セント（注2）をつけた。4日以降は、ブラジルやインドなどの主要生産国をはじめとする世界的な天候不順の懸念から、6日には同19.22セントまで上昇した。7日以降はブラジルリアルが対ドルで17カ月ぶりの安値となったことなどから、10日には同18.63セントまで値を下げたものの、11日以降は原油高（注3）に加え、インドの輸出量減少への懸念から、13日には同19.59セントまで上昇した。14日以降はブラジルの増産により下落に転じ、20日には同18.89セントをつけたが、21日以降はインドでモンスーン期初期の降水量が平年を下回ったことや政府による輸出制限維持の発表などから上昇し、24日は同19.41セントをつけた。25日はドル高で一時的に下落に転じたものの、26日以降はインドの主産地であるウツタル・

プラデーシュ州で赤腐病（red rot）（注4）の拡大が報告されたことから、約2カ月ぶりに20セント台まで押し上げられ、28日は同20.31セントで納会した。

10月限に切り替わった7月1日は、リアル安により下落したが、2日はインドやブラジルでの平年を下回る降水量がサトウキビ減収への懸念材料となり、同20.61セントと上昇した。3日以降はインド砂糖・バイオエネルギー製造業者協会（ISMA）が2023/24年度産砂糖の余剰分について、政府に対し輸出許可を要請したことなどから、9日には同19.62セントまで下落したものの、10日はリアル高により同19.81セントと上昇した。

（注1）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してリアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫

につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産

への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 真菌の感染によって引き起こされる病気で、茎の内部が腐り、赤色に変色する。サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を及ぼすとされている。

### 3 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2024年7月時点予測)

#### ブラジル

##### 2024/25年度 (4月～翌3月) の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：874万ha (前年度比4.0%増)

生産量：6億6216万トン (同7.1%減)

###### 【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量：4792万トン (同2.8%減)

輸出量：3766万トン (同0.2%減)

#### 2024/25年度の砂糖生産量はわずかに減少するも生産は順調

2024/25年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、874万ヘクタール (前年度比4.0%増) とやや増加が見込まれている (表)。一方、サトウキビ生産量は、中南部地域での干ばつ傾向により、サトウキビの変色や枯死など作柄の悪化が懸念されることで、6億6216万トン (同7.1%減) とかなりの程度減少が見込まれている。

砂糖生産量は、4792万トン (同2.8%減) とわ

ずかに減少が見込まれている。ブラジルの砂糖生産量の9割を占める中南部では、24/25年度4月～6月の生産実績が前年度同期比15.7%増と順調であるが、サトウキビの作柄悪化による減産などから、ブラジル全体の生産量は記録的な生産量となった23/24年度には及ばないと予測されている。砂糖輸出量は、インド産やタイ産の輸出が振るわず、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖の堅調な需要が期待されることで、3766万トン (同0.2%減) と前年度並みが見込まれている。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

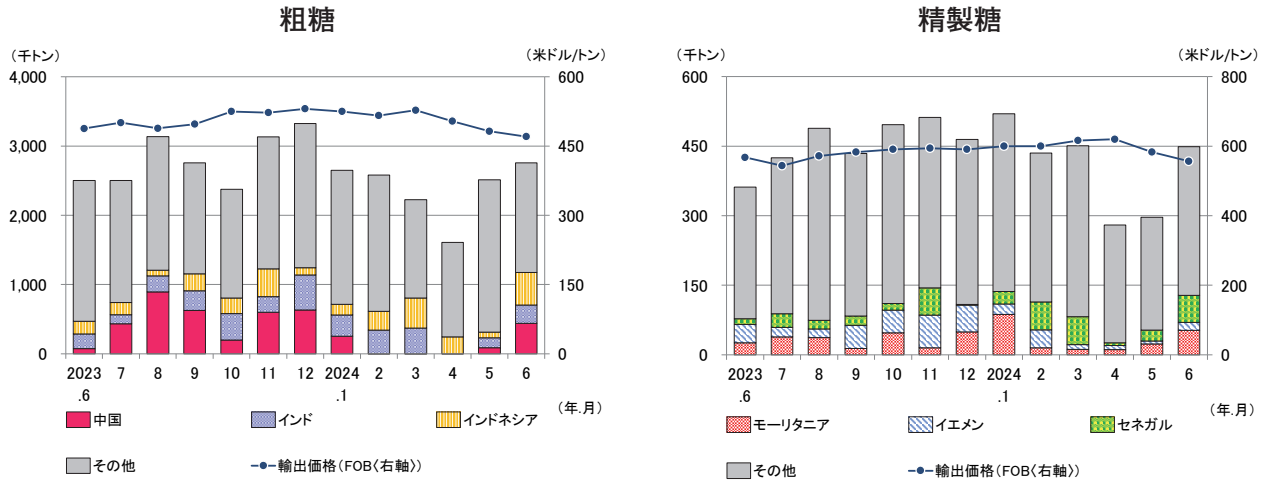
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (6月予測)	2024/25 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,672	8,421	8,408	8,732	8,741	4.0%
サトウキビ生産量	576,707	606,676	713,134	670,766	662,160	▲ 7.1%
砂糖	生産量	37,600	39,700	49,320	49,020	▲ 2.8%
	輸入量	5	2	5	4	▲ 22.0%
	消費量	10,712	10,769	10,800	10,800	0.0%
	輸出量	27,093	28,985	37,727	38,762	▲ 0.2%
	期末在庫量	3,533	3,481	4,279	3,837	3,741
期末在庫率	9.3	8.8	8.8	7.7	7.7	1.1ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2024」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」  
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。  
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

## インド

### 2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

**【サトウキビ】**

収穫面積：522万ha（前年度比4.1%減）  
 生産量：4億3694万トン（同4.2%減）

**【砂糖（甘しゅ糖）】**

生産量：3468万トン（同2.0%減）  
 輸出量：412万トン（同52.3%減）

### 2023/24年度の砂糖輸出量は減産と国内供給の確保により大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、すでに収穫期を終えていることから、6月予測と同じく522万ヘクタール（前年度比4.1%減）とやや減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、主産地であるマハラシュトラ州では前年を上回るものの、ウッタル・プラデーシュ州では冬季の降雨が少なかったことや赤腐病（red rot）の発生で不作傾向となったことなどから、4億3694万トン（同4.2%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、3468万トン（同2.0%減）とわずかな減少が見込まれている。同国政府がサトウキ

ビ由来のエタノール生産を制限し、引き続き砂糖への仕向けを優先させている中で、ウッタル・プラデーシュ州ではサトウキビがジャグリー<sup>(注)</sup>生産に大量に仕向けられ、製糖工場での破碎量が減少したことが影響した。砂糖輸出量は、ISMAが同国政府に対して余剰分の砂糖輸出を許可するよう要請しているものの、政府は輸出制限を継続する意思を示しているため、412万トン（同52.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

(注) アジアや米国の一部地域で伝統的に製造される含蜜糖。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (6月予測)	2023/24 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	4,819	5,222	5,441	5,215	5,215	▲ 4.1%
サトウキビ生産量	415,221	481,599	455,898	436,937	436,937	▲ 4.2%
砂糖	生産量	33,642	38,559	35,389	34,677	▲ 2.0%
	輸入量	1,037	427	1,687	3,568	2.1倍
	消費量	28,679	29,516	30,078	31,536	5.2%
	輸出量	8,538	12,468	8,646	4,123	▲ 52.3%
	期末在庫量	7,971	4,973	3,325	5,910	74.5%
	期末在庫率	21.4	11.8	8.6	16.6	16.2

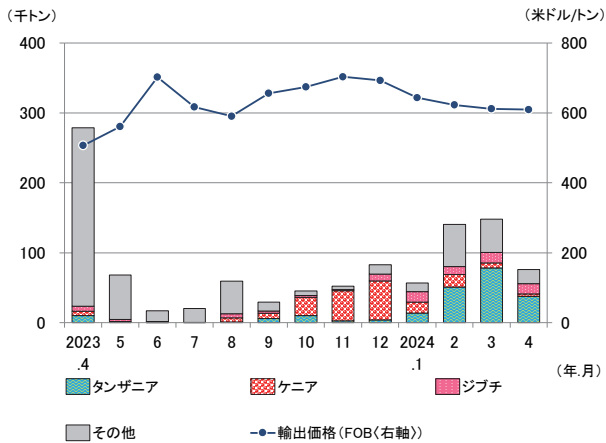
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

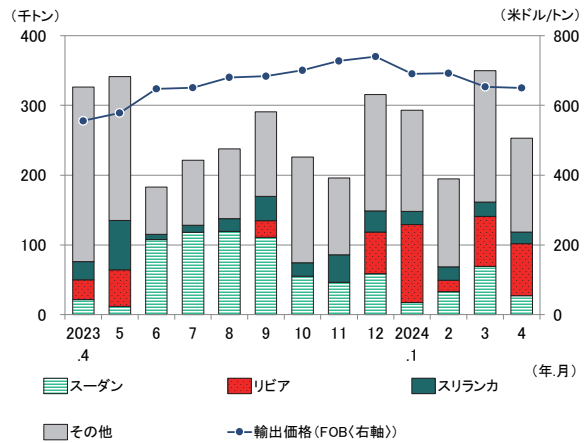
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

E U

2023/24年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：145万ha(前年度比3.5%増)

生産量：1億977万トン(同9.8%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1637万トン(同5.5%増)

輸出量：208万トン(同92.9%増)

2023/24年度の砂糖輸出量は砂糖の増産を背景に大幅に増加するの見込み

2023/24年度(10月～翌9月)のてん菜収穫面積は、EU最大の主産地であるフランスでの減少が見込まれる一方、ポーランドなどではてん菜がトウモロコシや小麦よりも収益性が高いことから栽培面

積の増加が見込まれるため、145万ヘクタール(前年度比3.5%増)とやや増加すると予測されている(表)。てん菜生産量は、栽培面積の増加に加え、イタリアやドイツなどで前年度よりも生産量が増加したことなどから、1億977万トン(同9.8%増)とかなりの程度増加が見込まれている。

砂糖生産量は、てん菜の増産を背景に1637万トン（同5.5%増）とやや増加が見込まれている。砂糖輸入量は、22/23年度から増加していたウクライナ産砂糖に対しセーフガード措置が発動<sup>(注)</sup>されたことや23/24年度の砂糖の増産により、232万トン（同29.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

一方、砂糖輸出量は、砂糖の増産により208万トン（同92.9%増）と大幅な増加が見込まれている。

(注) 詳細については、2024年7月5日付け海外情報「ウクライナ産砂糖および卵へのセーフガード措置発動(EU)」([https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01\\_003869.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003869.html))をご参照ください。

表 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

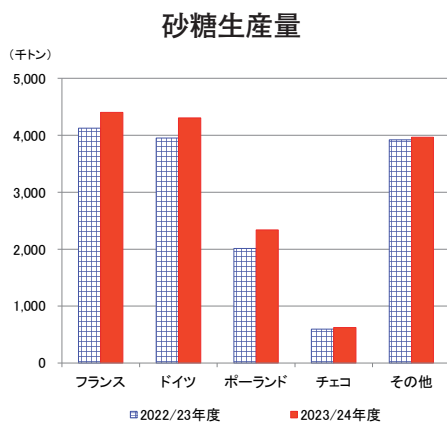
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (6月予測)	2023/24 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,474	1,454	1,398	1,443	1,446	3.5%	
てん菜生産量	98,499	111,391	99,964	109,587	109,770	9.8%	
砂糖	生産量	14,962	17,397	15,515	16,336	16,369	5.5%
	輸入量	1,888	2,153	3,284	2,258	2,315	▲ 29.5%
	消費量	16,609	17,917	17,126	17,072	16,925	▲ 1.2%
	輸出量	1,262	1,312	1,077	2,031	2,076	92.9%
	期末在庫量	1,327	1,647	2,244	1,735	1,927	▲ 14.1%
	期末在庫率	7.4	8.6	12.3	9.1	10.1	2.2ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

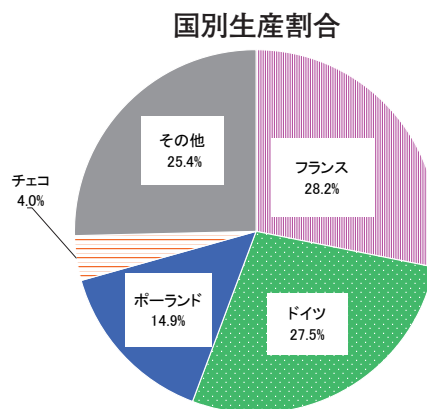
(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2023/24年度) (2024年6月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算

注2：2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度は予測値。



資料：欧州委員会

## 4 日本の主要輸入先の動向 (2024年7月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>および甘しや糖・その他<同1701.14-200>の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイである。2023年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が91.6%（前年比0.8ポイント増）、タイが8.4%（同0.9ポイント減）と、両国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

# 豪州

## 2024/25年度（4月～翌3月）の見通し

### 【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.4%増）  
生産量：3102万トン（同4.3%増）

### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：410万トン（同1.2%減）  
輸出量：308万トン（同8.2%減）

## 2024/25年度の砂糖輸出量はかなりの程度減少する見込み

2024/25年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の増加に加え、サトウキビの生育に有利な気象条件となることから、3102万トン（同4.3%増）とやや増加が見込まれている。

砂糖生産量は、6月予測と同じく410万トン（同

1.2%減）とわずかな減少が見込まれている。現地報道によると、豪州最大の精糖企業で発生したストライキにより、サトウキビの破碎開始が2～3週間ほど遅れるとされている。砂糖輸出量は、アジア地域や50年ぶりに輸出が再開された英国向けの伸びが引き続き期待されるものの、砂糖の減産見込みにより、308万トン（同8.2%減）とかなりの程度減少が見込まれている。

表 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (6月予測)	2024/25 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	343	328	353	358	358	1.4%
サトウキビ生産量	30,123	32,593	29,757	31,841	31,022	4.3%
砂糖	生産量	4,108	4,298	4,149	4,100	▲ 1.2%
	輸入量	9	8	10	11	15.0%
	消費量	1,037	1,033	1,030	1,031	0.1%
	輸出量	3,453	2,942	3,356	3,080	▲ 8.2%
	期末在庫量	389	719	490	490	▲ 0.0%
	期末在庫率	8.7	18.1	11.2	11.9	0.7ポイント増

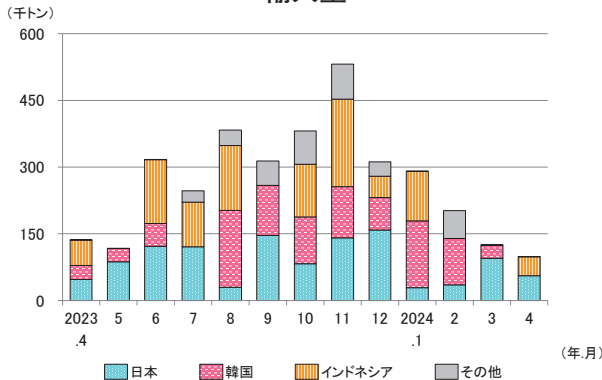
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2024」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

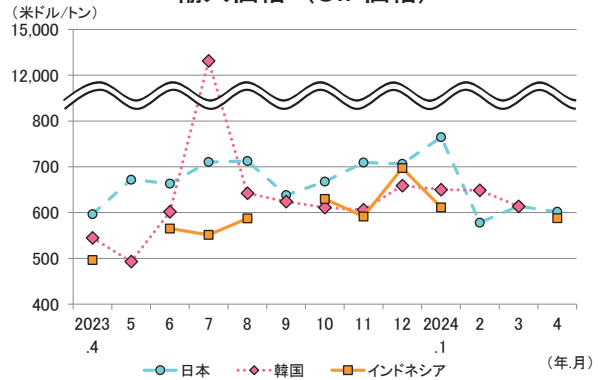
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## （参考）主要国の豪州産砂糖（粗糖）の輸入量および輸入価格の推移

### 輸入量



### 輸入価格（CIF価格）



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2024」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）の数値。

注2：直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：インドネシアの2023年5月、9月、24年2月、3月の輸入量は実績なし。

注5：韓国の2024年4月の輸入量は実績なし。23年7月の輸入量は、千トン未満。

# タイ

## 2023/24年度（10月～翌9月）の見通し

### 【サトウキビ】

収穫面積：152万ha（前年度比0.2%増）  
生産量：8217万トン（同12.5%減）

### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：932万トン（同20.3%減）  
輸出量：631万トン（同21.2%減）

## 2023/24年度の砂糖生産量および輸出量はサトウキビの減産により、大幅に減少する見込み

2023/24年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、152万ヘクタール（前年度比0.2%増）と前年度並みと見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、エルニーニョ現象による天候不順で不作傾向となったことなどから、8217万トン（同12.5%減）とかなり大きな減産が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの減産やこれまでの収穫分の可製糖率（CCS）<sup>(注)</sup>が低いことで、932万トン（同20.3%減）と大幅な減少が見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖生産量の減少を背景に631万トン（同21.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

(注) 可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (6月予測)	2023/24 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,485	1,525	1,514	1,518	1,518	0.2%
サトウキビ生産量	66,659	91,145	93,888	82,167	82,167	▲ 12.5%
砂糖	生産量	8,046	10,643	11,682	9,293	▲ 20.3%
	輸入量	111	149	283	150	▲ 64.7%
	消費量	3,592	3,424	3,348	3,372	0.7%
	輸出量	3,950	7,867	8,002	6,340	▲ 21.2%
	期末在庫量	5,147	4,649	5,263	4,994	▲ 5.0%
	期末在庫率	68.2	41.2	46.4	51.4	51.6

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2024」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

## (参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移

